



世田谷少年サッカー連盟 審判員規定および基本マニュアル

2026年3月20日・見直し

- 当連盟が主催する公式戦に際し、選手が安全で公平にプレーできる環境。
楽しく**素晴らしいゲームが進められる環境を審判員が提供**できることを目的とする。

1. 審判員規定

【担当審判員について】

- ・公式戦は主審、副審、第4審判の4名を基本とする。
(大会により個別のレギュレーションがある場合を除く。)
- ・担当審判員は後審判(自チーム試合の後)を基本としますが小学校会場では1部前審判として1チーム2名ずつが担当する。
自チームの勝敗に関わらず各審判員の経験により4名で担当割り当てを決定する。
<小学校会場以外>
第1試合&第4試合の審判は**第3試合出場チーム**が担当する。
<小学校会場>
後前試合で審判を担当する。
(奇数試合が後審判、偶数試合が前審判)
ただし、当日の試合数により変動する事が有る。
(時程に対応する試合が記載される)
- ・都大会に繋がる一部大会(全日本U12、JA東京カップ、ハトマークフェアプレーカップ、TOMAS交流会)のベスト8の主審およびベスト4の審判員は原則連盟で手配する。
- ・学年別大会(春季学年別大会、区民スポーツ大会)のベスト4の審判員は原則連盟で手配する。

【審判員規定】

- ・主審、副審、第4審判を問わず、JFA公認の審判証(電子媒体を含む)、審判服上下の着用、ライセンスワッペン、リスペクトワッペン、時計、筆記用具、笛、コイン、カード(イエローカード、レッドカード、グリーンカード)を携帯する。
- ・メガネ、貴金属、付け爪等を着用した審判員は試合を担当できない。
(但し、サッカー用スポーツメガネの場合は当該試合の両チームベンチ入りスタッフの事前了承を得た場合のみ可とする。)
- ・担当審判員は運用マニュアルで既定された時間に会場に入り試合開始10分前に指定の場所に集合。
担当試合の審判割り当てを決定する。
(ベンチスタッフが後審判を担当するなど、事情により2名の審判員が事前に集合出来ない場合も、必ず1名は事前に集合しなければならない。
ベンチから後審判を担当する場合は自チームの試合終了後、速やかに次の試合の審判に入るこ

と。)

【競技規則他】

- ・ JFA 発行「サッカー競技規則 2025/26」は 2026 年 3 月 1 日より施行、その他のローカルルールは、大会要項および「世田谷少年サッカー連盟 8 人制大会における統一競技規定」に則り実施する。
- ・ 試合球、フラッグは本部で用意する。
審判カードは各審判員が持参する。
(審判は 4 名とも審判カードの記載を必ず行う)
試合終了後、審判員 4 名で結果を確認したことの証明として、審判カードに担当審判員のサインを記入する。
(審判カードの審判名は担当審判位置のみの記載で良い。)
- ・ 夏期(6 月～10 月末)の試合については、選手の安全性を第一に前後半とも中間で飲水タイムまたはクーリングブレイクを採用する。
(15 分ハーフ=飲水タイム 1 分以内、20 分ハーフ=クーリングブレイク 3 分(屋根のある場所に退避している時間が 3 分間)。
プレー時間確保のため、アディショナルタイムとして試合時間に加算する。)
飲水またはクーリングブレイクは、当日の天候と会場の状況を踏まえ、事前に本部との協議を行い、どちらかを当該試合の主審の判断により両チームに事前告知の上、実施する。
- ・ 6 月～10 月末以外も飲水タイムを採用する。
これはマイボトルからの飲水を行うための対応である。
- ・ 審判服着用でのベンチ入り、試合観戦は禁止とする。
- ・ 大蔵総合グラウンドで審判員はスパイクの着用はできない。
- ・ 不明な点は各クラブ理事・副理事を通じて連盟事務局または審判事務局に問い合わせする。

2. 審判基本マニュアル

【試合開始前】※試合開始前10分前までに指定の場所に集合

- ・担当審判員は主審、副審、第4審判の割り当てを決め、試合時間や既定の確認、主審の主導により各審判員の確認事項など、事前の打ち合わせを行う。**【3. 審判員の事前打ち合わせ事項参照】**
- ・審判員は集合したら大会本部に「審判証」を提示する。
- ・選手、ユニフォーム調整は事前に双方のチームで実施する。
- ・担当審判員は、メンバー表を大会本部より受け取り選手および用具の確認を行う。
- ・担当審判員は選手、チーム指導者等を、前の試合が終了しベンチの準備ができた後ベンチまで引率し、その後、速やかに先発選手をセンターサークルまで誘導、試合開始の準備を行う。
- ・両チーム挨拶後、キャプテンを残し、コイントスによりエンド（前半に攻める方向）またはキックオフの選択を行う。（事前にコイントスをしておいても良い。）
- ・主審はピッチ内の競技者数の確認、副審は各ゴール（ネットを含む）の設置状況の確認、第4審判は予備の試合球とベンチ入りチーム指導者（ベンチ入り指導者は1名～3名）の人数を確認する。

【試合】※担当審判員は協力し速やかに試合を開始（試合開始時間の順守）

- ・主審は選手の人数。
副審・第4審判の位置。
時計を確認した後、開始の合図を笛で行い、試合を開始する。

①主審

- ・副審と争点（ボールのあるところ）を挟んだ位置を基本に（対角線審判法）、選手とプレーが良く分かる位置と距離感を維持する。
- ・規律ある審判が試合を引き締まらせ、緊張感のある試合を展開する。
笛（電子ホイッスル可）を吹くときははっきりと、自信をもって吹きます。
（しかし、必要以上の笛は選手とチームを混乱させてしまう可能性があるため、不要な笛は避けます。**【競技規則 P206 笛を参照】**）
- ・手により相手を抑える行為や必要以上のコンタクトは試合を乱し、選手の負傷に繋がる可能性もある。
プレー中のそのような行為に対しては選手に声をかける。
- ・事前の声掛けは、選手とのコミュニケーションを取るうえで大切です。
「続けましょう」、「離れましょう」、「待ちましょう」、「ボールは動かないようにしましょう」などの助言を的確に行う。
- ・競技規則を理解し、懲戒罰を適切に適用し、公平・公正で分かりやすいパフォーマンスを行う。
- ・負傷により選手が倒れている、出血や強い衝突があった等、安全性の確保を必要とする時は勇気を持って笛を吹いて試合を止め、適切な判断を行う。
また、試合中に出血した選手は速やかにグラウンドの外に出す。

処置の上、完全に止血したこと、ユニフォームに付いた血を洗い流すことを主審が確認（第4審判に確認の移譲も可）出来た場合のみ、主審の合図によってゲームに復帰させることが出来る。

- ・選手の負傷時、チーム指導者をピッチに入れる場合は必ず主審の判断、合図にて行います。チーム指導者がピッチに入った場合、当該選手は一旦ピッチの外に出します。交代の選手を入れる場合は速やかに交代ゾーンから入場させる。
（8人制の場合は常に（退場者を除き）人数を揃えることが望ましい）

②副審

- ・他の審判と協力して主審をサポートし、試合を進める。
（試合時間、選手人数、得点、懲罰の確認を含む）
- ・スローイン、ゴールキック、コーナーキック、およびファールサポート（オフサイドや主審の見えにくいファールなどのシグナル）はフラッグによる明確なシグナルを行う。
- ・A1（アウェイチームのベンチ側）担当は第4審判とともにベンチコントロールのサポート、A2（観客側）担当は観戦者に対する注意も行う。

③第4審判

- ・自由交代の選手管理（交代位置、フィールド内の人数確認）。
予備球の管理（予備球の使用は必ず主審の指示により対応）。
得点と試合時間、警告・退場の管理補助。
ベンチコントロール（試合中の過剰なコーチングや選手負傷対応の調整、チームによるリスペクトを欠いた行為（暴言や審判に対する批判など））に対応する。

【試合終了】

- ・試合時間を経過した後、主審は笛による合図で試合を終了させ、両チームの出場選手をセンターサークル付近に集め、挨拶をして終了する。
（選手への得点や試合結果の報告は行わない）
- ・担当審判4人は得点、警告・退場の確認を行う。
その証明としてそれぞれの審判カードにサインを記入し、主審は大会本部の対戦表に結果を記載、審判カードとメンバー表を大会本部に提出する。
- ・試合後は短い時間でも良いので、振り返りのミーティングを行う。
試合での反省点などを確認し、審判技術の向上に繋げる。

3. 審判員の事前打ち合わせ事項

【大会規定の確認】※主審を中心に試合前ミーティングを実施

- ・ミーティングを4名で実施する。
- ・大会名、試合名、対戦チーム（ホームとアウェーの別、ベンチの位置）、競技時間（ハーフタイム）。
- ・交代可能人数、チーム指導者数の確認。
- ・同点時の対応（引き分け、延長戦、ペナルティマークからのキック）。
- ・飲水またはクーリングブレイクの適用有無。

【第4審判への依頼】※競技規則 P84 参照

- ・選手交代時の管理（交代ゾーンからの出入り、選手名のチェックは不要。
ただしメンバー表に登録されているかは確認、不整合があった場合、対象選手は交代できない。
その項を該当チームおよび大会本部に報告しクラブにペナルティを与える）
- ・ボールの管理（ボール交換が必要な場合は主審が合図する）
- ・ベンチコントロール（その都度、一人の指導者のみが立って戦術的指示を行うことが出来る。
テクニカルエリア（テクニカルエリアは設けないので、その場に立ち上がる事のみ許可される）
に入っている者が責任ある行動を取らなかった場合、主審に伝える。）
- ・負傷者対応（指導者の入場の許可、出血があった場合、止血の確認）。
- ・記録（得点、懲戒罰）。

【副審への依頼】

- ・得点の合図※競技規則 P190、198 参照
（クリアな特典の場合、ゴールインしたがプレーが続いている場合、得点を認めたくない場合）
- ・タッチジャッジ※競技規則 P135 参照
（副審との意思疎通の方法、スローインの監視の役割分担）
- ・オフサイドについて※競技規則 P209 参照
（違反の合図時の確認、その後の処置の確認）
- ・ファールサポートについて※競技規則 P109 参照
（どのシチュエーションでサポートを欲しいか、ペナルティエリア内の判断は？）
- ・ペナルティーキックの監視の分担
（副審はゴールの判断と GK の飛び出し、主審はキッカーの不正行為と選手の進入の確認）
- ・記録（得点、懲戒罰）。

●ゲームコントロール

- ・多くの人がゲームの流れとジャッジを見ている。
審判員としての身だしなみ、正しい審判服の着用から信頼が生まれる。
試合に対しての責任と自信を持って、判定する。
胸を張って、しっかりと走り、選手とベンチ、観客に分かりやすいパフォーマンスと笛を意識。
「開始」、「ハーフタイム」、「終了」後も笑顔で。
- ・試合中は選手へのリスペクト、他の審判員へのリスペクトを忘れずに。
声掛け、アイコンタクトなど、コミュニケーションを取って、ゲームを進める。
- ・皆さんが担当する試合は「公式戦」です。
皆さんの審判した結果が対戦したチームの公式記録となる。
そのことを良く理解し、誇りをもって担当試合の審判に取り組む。